

令和7年度「市民と議会の対話集会」記録

総務企画委員会

■開催日時 令和7年10月30日（木） 14:00～16:00

■開催場所 苗木交流センター ホール

■懇談先 市内15地区まちづくり協議会、中津川商工会議所、中津川北商工会

■出席議員 総務企画委員会
吉村浩平（委員長）、林 友義（副委員長）
長谷川 透、宮嶋寿明、糸魚川伸一、田中愛子

■懇談テーマ 「市の魅力を生かした移住定住について」

■懇談内容

中津西地区

- ・「内陸にある中津川」、「安心な街中津川」をPR出来るようになれば、災害があるなしに関わらず移住者は増加するのではないかと考えている。
- ・市内には中津川市災害対策協議会が設立されており、河川の安全等も保たれている。
- ・昨年西地区防災会議、西地区防災フェスタを開催し、若い世代の参加を呼びかけ、地域の住民の繋がりを醸成している。

中津南地区

- ・まち協と区長会が一体となり、防災や地域の子供たちの育成に力を注いでいる。子供たちの安心安全、四ツ目川災害防止に力を入れており、安心安全な地域づくりが移住定住に繋がると考えている。
- ・中津川市の特徴を、しっかり情報発信して行くことが大切であると思います。
- ・移住した場合、住むところが必要となる。その情報をしっかり提供することが重要と考える。

中津東地区

- ・中津川市は「こんなところですよ」、「こんなことをしていますよ」等、攻め感覚で発信して行くことが大切であると思う。
- ・若い職員で移住定住に注力したいという思いがあっても、人事異動ですぐ変わってしまう。プロジェクトチーム等を立ち上げ、やる気のある若者を有効に活用すべきであると思う。
- ・固い頭で考えるのではなく、若い年代の職員を市外に派遣し、もっと移住定住に関する知識を身に付けて頂くことも大事であるとする。「井の中の蛙」では駄目であるとする。

思う。

- ・市議、区長会、まち協、集落支援員等の関係者が定期的に集まり検討して行くことも重要と考える。

苗木地区

- ・自然を主体に PR しても、短期的な人の流れを創出することしかできないのではないかと考える。神坂スマート IC 開通に伴うポスターにおいても、観光振興という感じを受け、超短期的な人の流れを創出しようとしているように感じてしまう。
- ・リニア中央新幹線駅が新設されれば、テレワークが可能となり首都圏に仕事を持った方々の移住が増加すると思う。その対策を早急に講じるべきであると考ええる。
- ・佐久市内には、高速道路 IC が 6 箇所あり、交通の便が良いことから移住定住者が増加していると考ええる。移住定住には道路整備が不可欠と考える。
- ・近年、有名私立の小中学校で教育を受けさせたいという教育移住も増加している。そのような観点での対策も、早急に講じることも大切であると思う。
- ・名古屋市では「誇れるところ、良いところ」は何ですかというアンケートを実施し、その結果として「日本各地へ移動しやすい」との結果が出た。
- ・当市は、県内でも三番目に移住者が多い街となっている。原因として考えられるのが、中央自動車、JR 中央線の効果が高いと思っている。今後、リニアの開業、濃飛横断自走車道の開通が当市にとって移住定住の大きな効果をもたらすと考えます。しっかりとした PR が重要であると考ええる。
- ・現状の魅力をどのように発信して行くのかより、この先の新しい魅力を創出して行くことの方が重要と考える。

坂本地区

- ・以前浜松の JR 車両基地を視察しましたが、800～1,500 人の従業員が働いているとのことでした。当市にも車両基地が建設される計画があり、賃貸住宅のみで対応できるのか、住宅環境の調査を早急にすべきと考える。
- ・戸建て住宅を新築しようという思いがあっても、土地が確保できるのかが今後の大きな課題であると考ええる。
- ・移住定住を考えた場合、やはり働く場所の確保が重要と考える。また、転出を食い止める対策も重要であると考ええる。
- ・坂本に工業団地がありますが、移住定住を考えた場合、新たな工業団地の新設も重要であると考ええる。

落合地区

- ・立地条件が良くないため「行ってみたい」、「住んでみたい」というエリアではないと思っています。
- ・学校の通学、仕事、医療、食品確保等、今後改善して行かなければならない課題であると考えている。
- ・移住定住に関し、若者との意見交換の場を創出し、地区としても移住定住対策につい

て考えて行きたいと思っている。

阿木地区

- ・阿木地区は、高齢化率44%と市内で2番目に高い地域です。人口も1,900人を割り込み、何もしないでこのまま10年過ぎてしまうと限界集落となってしまう。
- ・地区の課題として空き家の活用、移住定住を考えて行く事が直近の課題であると考えている。
- ・昨年、若者有志の会「リコミン」が立ち上げられ、古民家を再生する活動に取り組んでいる。
- ・2015年から、恵那市飯地に移住した名大の高野教授が推進する「農山村の地域再生」計画を学び「阿木移住定住委員会」を発足し、古民家の発掘、空き家バンクへの登録等を推進して行きたいと考えている。また、移住定住希望者には事前に面談し、地域の風習等を説明する中で移住定住の参考にして頂く活動も考えている。
- ・阿木UIターン住宅は2棟8世帯が入居できるが、1世帯が入居しているのみであり、1人世帯でも入居できるよう規制緩和をして頂きたい。
- ・農地が多く住宅地として活用したいが、農業振興地域の規制がかかっており、住宅地として活用できない。規制緩和をして頂きたい。
- ・阿木地区には、空き家が42件ある。そのうち所有者が判明しているのは11件あり、空き家バンクに登録しているのは3件のみ。相続手続きが出来ていないなど、解決しなければならない課題が山積している。

神坂地区

- ・移住定住を推進するためには、関係者の大きなエネルギーが必要となる。その点交流人口を増やす対策であれば、少ないエネルギーで実施できると考える。
- ・神坂の交流人口を増やすためには、地域が楽しくあるべきと考え、今年は8月に子供の立案で地域一丸となり、マレットゴルフ大会を開催し180名余りが参加しました。
- ・耕作放棄地が多くあり、何かに活用できないかという観点から、防災訓練を実施する田であることにちなんで「防災農園」と命名し、地域住民で野菜を作り地域の元気をアピールしている。そんなところには、必ず人は来ると考えている。
- ・集落支援員として空き家調査をしています。空き家の程度は良い状態ですが、家の周りの木、草が生い茂り景観が良くない状況にある物件が多くある。景観整備の支援対策を講じて頂きたい。

山口地区

- ・当地域には魅力的な空き家が少なく、老朽化も進んでおりリフォームするにも、高額な費用が掛かると思われる。市の助成事業はあるが、もう少し助成額を上げて頂きたい。
- ・移住して住んでもらうためには、地域の環境を整えることが重要であると考えている。道幅が狭く、斜面の敷地が多く、ハザードマップの上では、黄色と赤色のエリアがほとんどです。また、食料品店、飲食店もありません。特に高齢者は、生活しづらいの

が現状です。しかし、「住んでみたい」と思われるように「山口の魅力再発見」という活用戦力を立案中。

- ・今年空き家バンクに新規で3件登録しましたが、これは人口減少が進んでいる表れです。空き家の環境を整えて行くことが、移住定住には不可欠と考える。

かわうえ 川上地区

- ・移住定住を考える場合、他の真似をするのではなく川上らしさを前面に出していくことが大事であると考えている。地区ごとに魅力は異なるので、中津川市一つの施策というよりは、地域ごとで活動できるようサポートして頂く体制を構築して頂きたい。
- ・川上の人口は650人ですが、この現状が良いと思ってくれる方々に移住してもらうことが重要であり、そういう方々とどの様につながるかというのが課題である。田舎でありながら、グローバルにということが川上の目標。
- ・企業誘致をすることで、企業の魅力に引かれ移住する見込みの方もおり、定住に繋げて行きたい。
- ・「川上の庄屋」という建物があり、そこで宿泊業を開業してもらう企業も確保している。また、二年間空き家となっている旧川上保育園の活用にも協力頂くことになっている。
- ・休養村センターの宿泊も視野に入れ、海外からの修学旅行生の受け入れも検討している。
- ・イベントを企画し、移住定住希望者に「川上を見てもらう」ことが重要であり、また、地域住民と交流して頂くことが大切であると考えている。そうすることにより、総合的な相性確認ができると考えている。
- ・Yahoo ニュースや地方創生などの情報機関を活用し、川上地区の状況を定期的に伝え取り上げて頂くよう取り組んでいる。
- ・情報をたくさん発信し川上に来ていただくことが大切ではなく、川上の皆さんと上手くやって頂くことがとても重要だと考えている。
- ・川上には賃貸物件が少なく、空き家はあるが家や庭が大きく単身者には不向き。
- ・市営住宅の補助年限が過ぎているものに関しては、管理者を市から地域に移管し地域の条件に合った方法で運営できる環境を整えて頂きたい。

加子母地区

- ・少子化により、子供の数が減少している。令和11年には、複式学級になる見込みであり、もし学校統合になれば若いIターン者は移住定住を控えるのではないかと心配している。
- ・高校生の通学バス代金の負担も移住の障壁になっていると思う。恵那市まで通学すると、年間28万円余りかかり、3年間で100万円近くなる。このような状況の中、坂本地区等旧市内に移転してしまう方もいる。子育て世代の移住定住者を増やすには、高校生の通学バス支援充実がとても重要である。
- ・交流人口を増やすことも大切である。当地で古民家をリノベーションし宿泊施設としたところ、多くの外国人の方が利用しているようである。この地域は、日本の真ん中

であり金沢市、高山市、名古屋市に近く移動するのに便利な地域であるとのことで外国の皆さんに人気を博している。

付知地区

- ・付知町まちづくり協議会では、10年前から中学生との意見交換会を実施し、中学生にまちづくりの政策提言をして頂いている。この事業により、故郷に愛着を感じUターンして頂くきっかけづくりをしている。
- ・北商工会付知支部の青年部が主催し、付知中学校で第二回目となる「町内企業説明会」を開催した。高校、大学を卒業すると市外へ転出してしまう人が多くいるが、「町内にもこんな良い企業があるんだ」ということを今の内から認識してもらい、いつでもUターンして頂ける環境づくりをしている。
- ・移住定住に関しては、移住者に町の施設、相談窓口、イベント、習慣等を掲載したパンフレットを渡し移住後の支援をしている。

福岡地区

- ・ハッピーフェスティバルという新たな音楽祭を開催し、子供たちの文化的能力を向上させる環境を作り、子育て世代の移住に繋げようと頑張っている。
- ・恵那市の高校まで孫の送迎をしたが、非常に負担が大きく移住定住を考えるうえで、支援の充実が大切であると考えている。

蛭川地区

- ・蛭川に移住して頂いた40～50歳代の方々と懇談会を開催し「なぜ蛭川に来てくれたのか」「蛭川の魅力」等について伺い、今後の移住定住の在り方を検討している。
- ・子供の数も減少し、将来的には学校統合も必要になってくるのではないかと思う。子供たちに地域の伝統文化である「杵振り踊り」を身に付けてもらい、地域の素晴らしさを再認識してもらう活動にも力を注いでいます。
- ・若者が働ける場所を確保することが、移住定住の重要な課題であると考えている。働く場の確保に力を注いで頂きたい。

中津川商工会議所A

- ・若者が魅力を感じ、自分らしく働ける職場やUIターンしたくなるような魅力ある職場の創出が大切であると考えている。
- ・名古屋に通勤できる圏内であり、週3回会社勤務、週2回自宅でリモートワークといった、働き方に対する魅力や強みをもっとPRすることが必要と感じている。
- ・中津川は、恵那と比較し大きな会社もあり、また、1～2人が入居できる物件も多い。
- ・高校卒業後、多くの生徒は大学、専門学校に進学しますが、地元に戻って就職する人たちは少ない。帰ったとしても、市役所、教師、医療職等選択肢が少なく、その点が市外に出ても戻らない要因であると考えている。
- ・中津川市は、製造業や小売業が盛んであるが、女性の視点から製造業に関しては、「能力向上のチャンスに不満を感じている」。また、小売業に関しては、「出産等により非

正規雇用となり、雇用形態に不満を感じている」。特に子育て中の女性に関しては、職業の選択肢が少ないことへの不満が高いことから、これらの課題解決が重要と感じている。

- ・新卒者が、Uターンしたくなるようなキャリアパスが実現できる町であることが大切である。
- ・現代の若者は、転職前提で就職している。潰しの利かないキャリアは敬遠される。転職するときに役立つ職場であるかが重要であり、そう考えると都会の会社の方がキャリアも積み転職もしやすい現状がある。中津川市内の大きな企業が考えるキャリアと若者が望んでいるキャリアの考え方にずれが生じているように感じている。すり合わせが重要である。
- ・時間的制約のある人でも、働ける環境を整えることが重要であり、多様な働き方を可視化して行くことが重要である。
- ・子育て世代にとって通学支援制度の充実、親の働き方をサポートすることにつながり、移住条件の重要な決め手になる。
- ・近隣市では、商店街のエリアも含めて住宅開発をしており、住みたいが土地が確保できない状況にあります。商店街からは異論も出ており、住宅地と商業地をしっかりとエリア分けすることが重要と考える。

中津川商工会議所B

- ・大学や専門学校に進学する高校生は、地元企業のことを知らないから大学を卒業しても中津川の企業が目に留まらないと思う。そんな環境を改善することが大切である。
- ・高校生と接する中で、子育てに関し現代は過保護な環境にあると感じている。家庭での会話も無いように思う。父親がどこの会社に勤務しているのか、どんな仕事をしているのかを知らない生徒が多いと感じている。これが中津川市で就職する、Uターンする障壁になっていると考える。
- ・移住してきた方々には「なぜ移住したのか」等をしっかりとヒアリングし、対策を講じて行くことが重要である。
- ・移住定住窓口の対応に関し、親身さに欠けるとの話も聞いている。「ぜひ移住定住して頂きたい」との強い思いを持って対応頂きたい。また、担当職員が地域の習慣、風習等を理解し移住者に対し説明できるような環境を整えることが、当市に移住者を引き付ける大きな魅力になると考える。
- ・ターゲットに合うような宣伝をしなければ、対象者には響かない。どのような世代に増えてほしいのか、しっかりと対象者を絞り込んだ宣伝が必要。

中津川北商工会

- ・移住定住には、働く場所があり、その地域に活気があることが重要だと考え地域づくりに力を注いでいる。
- ・道路整備も移住定住には欠かせない事項である。災害時の防災道路として、また、観光誘客、物流等地域の活力を生み出すための重要な項目であり、リニア開業を見据え濃飛横断自動車道の整備は重要案件であると考えている。

議 員

- ・視察では、教育移住に力を入れている地域もあった。都市では出来ない素晴らしい子育て環境が当市では整っていると感じている。今後皆さんと推進して行きたいと考えている。
- ・空き家を借りたい側と提供したい側が上手くマッチングできていない現状があり、ヒアリング等を通じてしっかり対応できる環境を整えることが大切であると感じた。

議 員

- ・市内の市営住宅も空いているところが多くある。入居には一定の条件があるが法律改正により入居条件が緩和される事例もある。常にアンテナを広く張り巡らせ有効に市営住宅を活用できる体制づくりが重要と考えている。

議 員

- ・女性の働ける場所、スキルが向上できる環境を整えることが重要と考えている。女性が、「働きたい」「住みたい」と思えるような中津川市を作って行きたい。

議 員

- ・地域が広いため、ターゲットをどこに置くかが非常に難しい課題である。
しかし、今後リニアの開業もあり、ターゲットをどこに絞り中津川の知名度を上げて行くのか。そんな課題に最優先で取り組んで行きたい。